

サポートセンター
かなで

創樹



題字は 田中蘆雪さん

発行元

社会福祉法人創樹会
 広島県福山市水呑町7187番地1
 TEL (084)956-0255
 FAX (084)956-5749

令和二年度事業を始めるにあたって

学園の桜も満開となり周りの緑も濃く春爛漫の候になりましたが、今年は新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、首都圏での爆発的な感染拡大や医療現場の緊急事態が毎日のように報告され、最悪の事態を回避するため「外出自粛」や「商業施設の休業」「各学校の休校」が要請協議されるなど緊迫した事態となっていますので、花見にお越しになる方はありません。

全国の福祉施設でも職員、利用者などの感染が継続していますし、感染経路の分からない人たちの増加も報道され、四月二日には福山市で一人目の感染者が報告され（四月九日には五名になりました）、当法人でも各行事の縮小や自粛・中止により大きな影響を受けています。勿論、厳重な予防と対策を行い、「ウイルスを持ち込まない」「持ち出さない」との注意喚起はしているもののウイルス感染が起きないとの保障もなく、感染症対策に翻弄される厳しい一年が予測されます。

昨年は創樹会の六〇周年行事を終え法人としても新しい時代に入りました。

本年度の幕開けには日中サービス支援型グループホーム「サポートセンターかなで」を開設しました。これは児童施設の年齢超過児童と強度行動障害の方のグループホームとして新設したものです。また、福山市内でさをり織を中心に活動してきた「さをりひろば工房まち」を就労支援事業所さくらの従たる事業所として開設しました。これはNPO法人さをりひろばふくやまの就労継続B型事業の廃止により生活介護事業所として設ける

こととなったものです。

福祉業界では深刻な人材不足に悩まされていますが、新規人材確保の取り組みとして発信力の強化などに邁進すると同時に定年延長や再雇用、契約職員、パート職員の採用増を織り込みながら、働き方改革や同一労働同一賃金、職員のメンタルサポートなど、誰もが働きやすい職場づくりへの取り組みをこれまで以上に進める年にもなり、二〇四〇年問題と言われる生産年齢人口の急減など近未来を見据えた運営に努力する年になります。また、昨年度末に掘削復旧された園庭前の砂防堤のおかげで豪雨災害への備えができてつつありますが、「安全・安心」を基軸とした、より強い防災意識に向け日常的な情報把握や準備・訓練に努めなければなりません。

本年度も、「障がいのある人たちの人生を支える」気概を持ったスタッフの皆さんとともに「嬉しいサービス」提供の事業体であり、一人一人がダイヤモンドのようにキラリと光る年になることを心から祈念し進めてまいります。

皆さんの変わらないご協力とご支援を心からお願い申し上げます。

二〇二〇(令和二年)四月

社会福祉法人創樹会 理事長 西山堅太郎

新年度のご挨拶

福山六方学園

施設長 澤田 康晴



昨年十二月に中国で出現した新型コロナウイルスは、約二ヶ月で南極を除く全ての大陸に広まり百年に一度ともいわれる世界的大流行となりました。福山六方学園も例外なく警戒を深め対策を講じているところです。

保護者の皆様には、帰省や面会等でご理解とご協力を頂いておりまして、その分不安やご心配をおかけしていることと思っております。

そんな中、十九名の利用者者の皆さんは、兄弟のようにケンカして泣いたり、笑ったり、みんなの賑やかな声がいつも聞こえ元気に過ごしています。私達スタッフは、その声に励まされ、癒されて元気をもらっています。

福山六方学園の新年度のスタートは、サポートセンターかなでの完成により、四月から六月にかけて三名の利用者が移行します。その他にもあゆみ苑成人寮に一名、法人外グループホームに一名、高等部を卒業した一名が三月末に移行しており、合計七名が新たなステップへと巣立って行きます。この移行がスムーズに行えるように法人内外の事業所と連携、調整を行う事

を新年度への主な取り組みの一つに上げたいと思っております。二つ目の取り組みとして、管理者とケース担当による家庭訪問、個別面談を実施します。これまでも保護者の皆様には、定期連絡を行い、学園行事にも参加して頂いておりますが、ご家庭に伺ってお話をさせて頂くことで、施設内で話す内容とは違った思いをお聞かせ頂けるのではないかと、その子どもさんに対する思いを共有させて頂ければという思いと、子どもさんが育つた環境をスタッフが実際に感じて感じることで、今後の個別支援や施設環境の改善に役立つものと考えております。三つ目は、スタッフのメンタルケアの一つとして、OJTRトレーニング制度を導入します。四つ目は、幼児受入れ体制の確立として地元の幼稚園と連携を行ないます。五つ目は、昨年度一

名の幼児が仲間に加わり、新年度も小学生が新たに仲間に加わったことで、利用する子ども達の年齢が下ってきました。これを機に、あおば舎、えがお舎、わかば舎、三つあそびユニットのメンバー構成を見直し、今までの以上に安心、安全で楽しく、そして成長出来る環境づくりをめざします。子ども達一人ひとりの成長を喜びとして、スタッフ一同がんばって参りますので、宜しくお願致します。

あゆみ苑成人寮

統括副園長・施設長 林 幸和



あゆみ苑成人寮は、入所型の施設で生活と日中活動を一体的に支援している事業所です。

今、あゆみ苑成人寮では利用されている皆さんの高齢化と障がいの重度化にもない、介護度も高まり医療対象者が急増してきています。昨年度は病気で亡くなった方も複数おられ、入院をされた方も複数おられ、この傾向が顕著に表れた年でした。また、その一方、行動障害を含む自閉傾向の強い方、精神や身体に障がいがある方の利用も多くなり、特性の多様化が進んでいます。これまでは日中活動に比重を置いて日課を組み立て生活の充実を図ってきましたが、このような皆さんの変化を受けて、看護師の増員、理学療法士の採用、日課変更の試行などを徐々に健康への支援や個別支援が充実するようソフトチェンジしているところです。

話は全く変わりますが、スタッフの皆さんとの嬉しかったやり取りの場面を紹介いたします。「名人の集団に」と題してグループディスカッションを行った時のことです。「笑わせ名人」「便所掃除名人」「散歩名人」「配慮名人」「挨拶名人」「コーヒー作り名人」「バットメイキング名人」「一緒に遊ぶ名人」と自称、推薦を問わず色々な名人が存在していました。このディスカッションは業務の中で何でもいからスベシヤリストになって、自信と誇りをもっていただきたいとの思いで行いました。お互いが褒めあい笑顔あふれる会となりました。この名人たちのチームがどう成長していくのが楽しみです。

もう一つは、視力を失った利用者の方が手術を終え、視力を回復して当院に帰ってこられた時のことです。嬉しかったのが玄關で大粒の涙を流し号泣されました。その姿を涙ぐみながら笑顔で迎えるスタッフたちがいました。素晴らしいうちがいました。素晴らしい仲間がいると感じた瞬間でした。こんなスタッフの皆さんと一緒に成長していけたらと思っております。

今日三月二十一日、園庭の桜が開花しました。ほんのりや提灯の取り付けが間に合いそうにありません。



サポートセンター友の家

管理者 藤井 豊治



友の家を利用している人たちの約三十%の方は六十歳を超え、持病やケガで通院機会が多くなっています。身体の不調は気持ちの面でも落ち込みやすくなり、生活リズムを崩してしまうきっかけにもなります。病气やケガと上手に付き合っていく方法を知ることが大切なことだと思いますが、今年度は少し事情が異なり、新型コロナウイルスへの対応も求められています。

しかし、行事の延期や中止が決定しても日々生活することは続きます。予定が変更され諦めたり、我慢したり、納得したり、「日々の生活」とはある程度自律をしながらの生活ではないかと思えます。何でも好き勝手に行動することは自身が困るだけでなく、周囲の方へ迷惑をかけてしまいます。でも、楽しみもないと自律が続けることは難しいのが人ですから、月に二度の「ふりんの集い」ではホーム単位を超えて楽しめるレクリエーションや外出を行い、普段とは違う環境でリラックスして参加し、しっかりと楽しんでおられるよう、できる喜びや自信に満ちた表情、表現在出せない笑顔を持ち帰ってもらっています。

また、フレンズハウスの活動では、育てた野菜をホームの食材の一部として提供することができました。「エエんができたでえ」「昨日食べたいよ」と声が聞こえてきます。何かに向き合って、しっかりと頑張った後の満足感、充実感は表現できない程です。日々の仕事も、生活も、余暇活動も、日中の活動も、しっかりと頑張る。私たちは頑張っている人を応援します。友の家としては以下の項目を重点事項として行いたいと考えています。

1. ホームを利用している人たちの人間関係を豊かにし、協力し合って、生き生きとした共同生活が継続されるよう支援します。

2. 地域社会に生きる一員として、自主的に地域住民と交流し、主体的活動への参加が促進されるよう支援します。

3. ホームを利用している人たちの高齢化に伴い日中活動の検討および健康生活を進めるなかで必要に感じ専門医療機関と連携を持ち、世話人・生活支援員・看護職員・相談支援専門員による迅速な対応を行います。

4. 消費力のある地域生活の充実と生活圏の拡大・社会資源の活用をすすめます。

5. フレンズハウスの活動として、コーポ洗台前の空地では野菜作りなどを、サポートセンター隣接のハウスでは創作活動に取り組みることを通じて利用している人たちが共に生きがい作りを支援します。

また、フレンズハウスの活動では、育てた野菜をホームの食材の一部として提供することができました。「エエんができたでえ」「昨日食べたいよ」と声が聞こえてきます。何かに向き合って、しっかりと頑張った後の満足感、充実感は表現できない程です。日々の仕事も、生活も、余暇活動も、日中の活動も、しっかりと頑張る。私たちは頑張っている人を応援します。友の家としては以下の項目を重点事項として行いたいと考えています。

新年度のご挨拶

さわびび

統括副園長・管理者 細羽 正樹



さわびびは今年度も生活介護事業（定員四十名）、日中一時支援事業（定員五名）の二事業を行います。現在の登録が六十名近くになり、スタッフも三十数名という最近では一番の大所帯となりました。たくさんの方に利用していただけたことは大変ありがたく、喜ばしいことではあります。が、ここ数年の求人難に頭を悩ませています。さわびびのみならず、当法人全体のスタッフの配置に四苦八苦しているのが現状です。法人としての人材確保の取り組みが急がれることはもちろんですが、私達スタッフ一人一人が現状を自覚し、どうすれば魅力のある、活気のある事業所になれるかを考えながら、サービスの質の低下に繋がらないよう、なんとか今を乗り切っていきたいと考えています。

昨年度を振り返ると、楽しい出来事がたくさんあった反面、病気とは言葉、お二人の方が亡くなるという悲しい出来事もありました。私達が仕事をすることで、利用される方々の命を守る事が一番の使命

ですが、「命を守ることの難しさ」、「命のはかなさ」を痛感させられた一年でした。新年度は気分を一新し、利用される皆さん、ご家族、スタッフが健康で、笑顔がいっぱい的一年にしたいと考えています。

①令和二年四月には特別支援学校高等部卒業後に利用される方二名のほか、四月から運用開始となるサポートセンターかなだてを利用される方を数名新たに迎えようと考えています。丁寧で細やかな対応を心掛け、スムーズに移行できるように配慮する。

②利用される方および家族の背景や個々のニーズ・課題を理解したうえでサービスの提供を行う。利用される方だけでなく、家族支援の観点も大切にします。

③福祉の専門分野をはじめ、アトリエ関係、人権擁護、リスクマネジメント、リーダーシップ、マネー、感染症予防、防災等の研修を重ね、スタッフとしての資質向上を図る。また、働き方改革として、業務の効率化、スタッフの労働衛生、有給休暇の消化、メンタルヘルス等にも配慮する。

やんち

統括副園長・管理者 猪原 義久



日増しに春めいてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。世間の話題は、新型コロナウイルス感染拡大の話ばかりで、その影響であらゆるイベントが中止となり、日本全体が暗い雰囲気になっていきます。そこで皆さん思い出して下さい。昨年ラグビーのワールドカップが日本で開催され、日本は初めてベスト八まで進みました。多くの日本国民が勝ち進む日本チームに感動を与えられ、そして一丸となつて応援し歓喜されたと思えます。日本は、ONE TEAM（ワンチーム）みんなでひとつになつて勝ち進んだのです。今こそ、その気持ちを思い出し、この厳しい状況を乗り越えていきましょう。

さて、新年度の『さくら』ですが、これまで『NPO法人さくらひろば工房まち』（福山市笠岡町一番七号）が長年行ってきた就労継続支援B型事業を、社会福祉法人創樹会の一員として迎え、多機能型事業所『さくら』の従たる生活介護事業所に変更し、『さくら』は、就労継続支援B

型事業の定員を二十五名から二十名に、生活介護事業の定員を十名から二十名に変更し、『さくらひろば工房まち』の運営を担いますが、これまでと内容は変わらず、利用される皆さんが安心して通って来られる様に継続した事業を行います。更に新年度の『さくら』は、次のように重点項目を設定し進めてまいります。

①利用される皆さんの障がいへの重篤化、高齢化に対応するため、安心で安全な施設作りをする。

②作業工程の見直しや生産性を高め、安定した作業収入を得る事で、利用者皆さんの工賃向上に取り組み。

③成果を上げることばかりに着目するのではなく、就労が困難な皆さんには、日常的に必要な支援を行う。以上三点を重点に、事業を進めてまいります。

また、私事ではありませんが、引き続き『さくら』の管理者を担うと共に、このたびは、統括副園長を拝命いたしました。私の様な若輩ものがこのような大役を仰せつかり、嬉しい反面、責任の重さに身の引き締まる思いです。今後皆様様の期待に応える事が出来る様になります。変わらぬご指導を賜ります様、宜しくお願ひ申し上げます。

サポートセンターびびの家

管理者 片岡 志保美



令和二年度は、サポートセンターびびの家が五年目を迎えます。水呑町内ですぶりむ、くすのき、ふじという三つのグループホームを運営してきました。重度の障がいのある方の地域生活の場として二〇一一年に開設したすぶりむは、現在四〇代から六〇代の男性七名が生活されています。朝、送迎車に向かう途中で出会う地域の方達に「おはようございます。」と大きな声であいさつする利用者の方に、笑顔で声を返して下さる風景もすつきり定着しました。

第一に余暇の充実に努めたいと思います。情報を集める、行く、買い物をする、作るなどの支援をし、個々の楽しみが広がることを目指します。時節柄、外出の機会や行き先を制限することが増えていますが、暮らしの中のちょっとした演出や工夫により、閉塞感を吹き飛ばしていきたいと思えます。

すぶりむに隣接するくすのきは、二階建の一軒家で男性三名が生活されています。利用者の平均年齢は四十四歳です。比較的障がいの軽い方が住まれており、その日の出来事や自分の思いなどをスタッフによく話されています。

第三に地域の方達との関わりを維持していくことです。今後も継続して清掃活動や防災訓練などへの参加を支援していきます。近年自然災害が多発し、地域の連携がより求められています。ホームに暮らす方達も緊急時には避難し、安全を確保しなければなりません。日頃から地域の方達との連携を密にし、お互いに助け合い、緊急時の対応が出来るようにしていきたいと思えます。

今年度もスタッフ一同、利用される方の暮らしの充実、安心安全に力を尽くしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

今年度もスタッフ一同、利用される方の暮らしの充実、安心安全に力を尽くしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

今年度もスタッフ一同、利用される方の暮らしの充実、安心安全に力を尽くしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

今年度もスタッフ一同、利用される方の暮らしの充実、安心安全に力を尽くしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

新年度のご挨拶

ヘルパーステーションあしすと

管理者 黒田 将義



うことは簡単ではありません。現在、あしすとでは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、電車での外出や大型複合施設への外出は控えており、支援前の検温や手洗い、うがい、手指消毒（各ヘルパー持参しています）、換気など、今私たちにできることをしております。限られた範囲ではありますが、外出支援を継続しております。見えないウイルスに対してどう闘っていくかを利用される方々と一緒に考え、手洗いやうがいなど生活の一部の大切な一環に学びながら感染予防に努めていきたいと思っております。また、ヘルパーが感染源にならないように、一人一人が健康管理に気を付けております。居室への支援に対してもご家庭に持ち込まないように注意しております。

今年も春に入學、入園を迎える子どもたち、また社会人として新たなステップへ向かっていく方々もいらつしやいます。大きく成長し、新しい生活に期待と不安でいっぱい、そんな若者たちの姿を多く見かけます。しかし、今年は新型コロナウイルスのために、普段と違う春を迎えなくてはなりません。私たちヘルパーは、行動援護や移動支援で利用される方と外出するサービスがあるために、大きなジレンマを抱えながら支援に入っています。

行きたい場所に行けない日々を過ごしている方が多くいる中、利用される方の希望を聞いて支援する私たちヘルパーにとっても苦しい日々が続いています。利用される方がいつも楽しみにしている行き先に行かなくなってしまうからです。普段通りというところが、これほど難しいものなのかと改めて思い知らされました。「利用者を守る」ということが、私たちの大きな使命ではありませんが、どのような説明をして、どのような手立てをして伝えたとしても、見えないものから守るとい



すてつぷ・ONEーすてつぷ ふあんだす・あさか

管理者 中常 克彦



家族が地域で生き生きとした生活を継続していただけるよう、家族の就労・レスパイトといった面にも目を向けながら受け入れを行っていきます。

今年度より『すてつぷ』『ONEーすてつぷ』『あさか』『ふあんだす』の管理者に就任いたしました中常克彦です。児童通所四事業所ともに、通つてくる子ども達にとっては『楽しい場所』、保護者にとっては『安心して頼れる場所』だと感じてもらえるよう、またスタッフにとっては『子ども達の成長を感じられる場所』として充実感を持って働けるよう、日々子ども達に向き合っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

『あさか』は就学前の子ども達が対象で、定員五名の日中一時支援事業所です。児童発達支援センター在籍の子ども達を中心に受け入れを行っております。子ども達も保護者も安心して利用できるような環境を整えながら、楽しく過ごせるように取り組めます。

『ふあんだす』は、定員一〇名の放課後等デイサービス事業所です。アセスメント・保護者の聞き取りを基に一人ひとりのニーズを把握しながら、個別療育・グループ療育での支援を提供していきます。

『すてつぷ』は定員一〇名の児童発達支援事業所です。単独通園を中心に、親子通園のニーズにも対応します。子ども達の小さな変化を見逃さず、気持ちに共感しながら、人との関係を大切にしながら療育活動を継続して提供していきます。

『ONEーすてつぷ』は二〇名の定員で、高等部三年生までの学齢期の児童・生徒が通う放課後等デイサービス事業所です。一人ひとりの目標を設定し、成長・発達に繋がる活動を行っていきます。また本人・



相談支援センター風ぐるま

管理者 藤井 祥吾



春を迎え新しい年度になることで、学校生活や就職、卒業後の新しい進路にチャレンジしていく方がたくさんおられるのではないのでしょうか。それに伴って担任の先生や身近な支援者が変わってしまうことで不安や期待も沢山あると思います。ご本人・ご家族のそういった思いを聞かせて頂きながら計画相談として契約させて頂いているみなさんの新しい活動参加や支援者との関わりが円滑に進んで行けるように、お手伝いをさせていただきます。

『相談支援センター風ぐるま』ですが、よく何処に事業所があるの？と聞かれますが事務所は卸町の放課後等デイサービス『ONEーすてつぷ』と同じ建物の中にあります。相談員の体制としては、今年度も昨年度と変わらず三名の相談支援専門員で児童計画相談事業と成人の方を対象とした特定相談事業を中心業務を行っていきます。一言で相談と言っても福祉サービスの利用だけでなく、ご本人やご家族の生活状況によってさまざまなニーズや不安なこと

があると思います。定期的なモニタリングを通して状況確認をさせて頂いていますが、それ以外の時でも「この手続きはどうするんだろう?」「こんなことをしてみたいんだけど」「将来のサービス利用や仕事の事が知りたい」など何かありましたら、ご遠慮なく相談をしてみてください。そういった時に一相談事業所の相談支援専門員だけでは解決できないこともあります。ご本人の気持ちを理解し認めてくれる地域の方や支援者と連携をしていく窓口になっていくことが大切だと実感しています。

今、新型コロナウイルスの影響で日常生活や生活の中心になっていく学校、福祉サービスの利用にも制限が出ている状況があります。毎日の生活の中で、楽しみにしていた活動や外出、イベントがなくなっていく事での気持ちの変化に寄り添いながら、少しでも前向きに生活できるように支援を心掛けていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。



新年度のご挨拶

事務局



事務局長 田中 創

昨年度は、「平成」から「令和」に変わる大きな節目の年に、「社会福祉法人創樹会」も創設六十周年を迎える事が出来ました。「社会福祉法人六方学園」の分園として「福山六方学園」が昭和三十四年（一九五九年）十月一日に、この福山水呑の地に創設され六十年。開園当初から多くの皆様方に支えられ、この日を迎える事が出来ましたことを、心より感謝申し上げます。又、これまでの歴史を辿り法人への理解を深めると共に、新たなスタートを切ることが出来た一年であったと想います。

今年一月下旬より日本でも発生した新型コロナウイルス感染症で、全国的に行事やイベントの縮小・中止となりました。当法人におきましても利用される皆さんや職員、そして関係者の皆さんの健康を一番に考え、四月一日に新任職員の辞令交付式を行っておりますが、本年度は規模を縮小し、理事長・管理者・入職者のみでの交付式となりましたが、少し寂しさもありましたが、辞令を受けた若き新任職員達の緊張を

た面持ちの中にも、これからの法人を支えて下さるであろう強い眼差しを見て、心強い想いを感じました。しかしながら、同日に行っております職員への「歓送迎会」は中止となり新任職員の全職員への紹介が出来ない状態となっております。その他、四月の第一日曜日に行っております『家族会総会』と『花見』、四月二十九日に行っております『創樹祭』も中止とさせて頂きました。利用者の皆さん・ご家族の皆さん等々楽しみにされていた行事を中止・縮小せざるを得ない状況となっております。一日も早くこの感染症が終息し、平穏な日々が来ます事を心より願っております。



利用者の方々が健康で豊かな生活が送れるよう、医務部門・給食部門と情報を共有し、各部署と連携を取り、法人事務局として尽力させていただきます。

今後とも皆様方の、ご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

EVENT

とんど



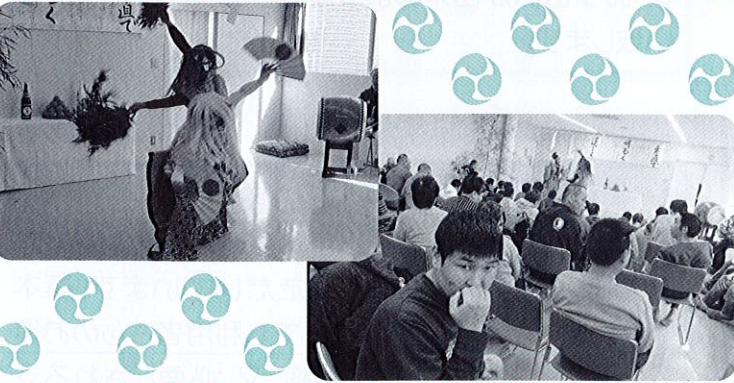
一月十一日土曜日に、あゆみ苑成人寮下のグラウンドにてとんどを行いました。去年はインフルエンザや利用者さんの病気等もあつたため、前日にスタッフが色々と試行錯誤しながら今年一年、皆さん元気で過ごせるようにと、心を込めて作りました。当日はあゆみ苑、福山六方学園合同で点火を行い、一瞬で大きな炎が燃え上がり皆さん大興奮でした。

今年度の皆さんの健康をお祈りいたします。

あゆみ苑成人寮 山下 和朗



神楽

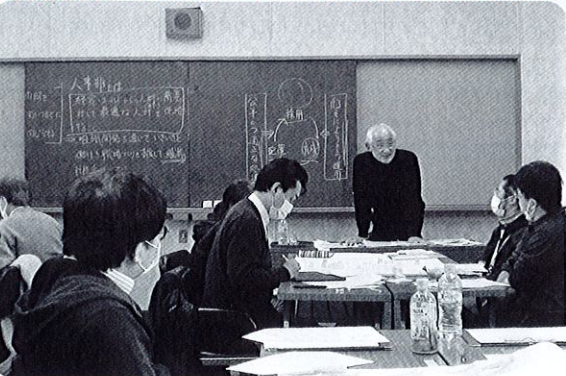


二月九日にあゆみ苑成人寮の多目的室にて、「備後田尻荒神神楽団」の方々をお招きし、神楽が行われました。福山六方学園とあゆみ苑成人寮の利用者さんたちが参加され、今年の無病息災を神楽で祈念致しました。

毎年来て頂いているのですが、今年は女性の方が初めて参加されました。迫力のある大胆な演舞と楽しい笛や太鼓の音楽、演者の方々の掛け合いに、利用者さんたちは笑顔で大きな声を出して喜びました。

あゆみ苑成人寮 川上 佳也

管理者研修



一月十日、東京学芸大学 菅野敦先生に助言をいただきながら、管理者研修を行いました。この度の研修は創樹会の喫緊の課題である「人材育成・人材確保、人事異動等」の問題をテーマに、各部署の管理者・副管理者に事前課題の提出を求め、それをもとに、当日グループワークを行いました。管理者研修でグループワークを行うのは初めての試みでしたが、和気藹々とした雰囲気の中で研修を行うことができました。

今後、重要と思うキーワードをグループで抽出し、まとめていく中で人事部門の在り方、研修システムなど、多くの取り組むべき課題を整理する事が出来ました。

今後管理者研修を定期的に行い、共通認識の中で、今やるべきことの優先順位をつけながら取り組みを進めていきたいと考えています。

さわらび 横溝 貴文

新人紹介 ~NewFace~



しんの としき
信野 暁哉

所属:福山六方学園

最初の一年は慣れない日々が続くと思いますが、その最初が一番肝心だと思っています。職場の先輩方にわからないこと、気になったことはどんどん聞き、自己解決せず今後の支援に繋がるように、頑張ってスキルを身に付けていきたいと思っています。よろしくお願いします。



はまぐち ゆか
濱口 由賀

所属:さわらび

12月よりきりりで働かせていただいております濱口です。未経験からのスタートで、初めはとても緊張していましたが、スタッフの方の親切な指導や、利用者の方が話しかけてくださったりと、おかげで今ではとても楽しく仕事をすることができています。利用者の方と沢山関わり、信頼関係を深めていけたらと思います。至らない点も多々ありますが、よろしくお願い致します。



こうげ し のぶ
高下 忍

所属:友の家

この度サポートセンター友の家に配属になりました「高下」と書いて「コウゲ」と言います。介護職は初めてではありませんが、まだまだ覚えることがあるので一つ一つ丁寧にこなしていくこと、支援者として知識向上を目指して日々取り組んでいけたらと思います。どうぞよろしくお願いします。



むらかみ ちひろ
村上 智央

所属:あゆみ苑成人寮

今年からあゆみ苑成人寮でお世話になります。広島国際大学から来ました村上智央です。大学で学んだことを生かせるよう一生懸命頑張りたいです。また、仕事の中でわからないことがあれば先輩職員の方に積極的に質問し、少しずつ確実に身につけていきたいと思っています。不慣れな面、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



よこやま ひろみ
横山 浩美

所属:友の家

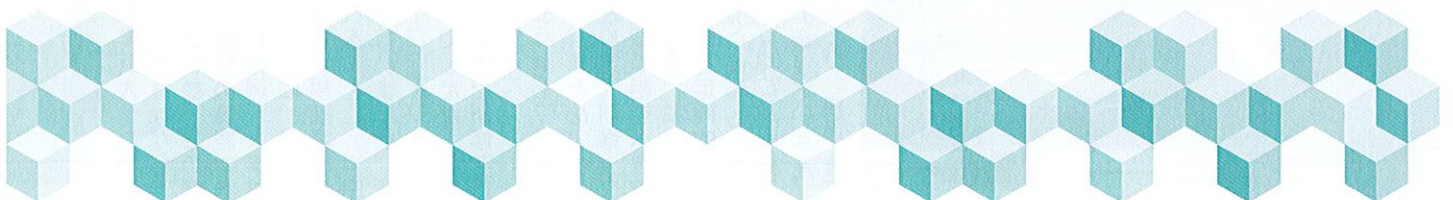
昨年11月よりサポートセンター友の家で働かせて頂いている横山です。上司や職員さんに色々教えて頂きながら利用者さんのお手伝いをさせて頂いています。利用者さんとしっかり関わり個々の特性を理解し、より良い支援・お手伝いが出来るよう頑張ります。よろしくお願い致します。



ふじもと まゆみ
藤本真由美

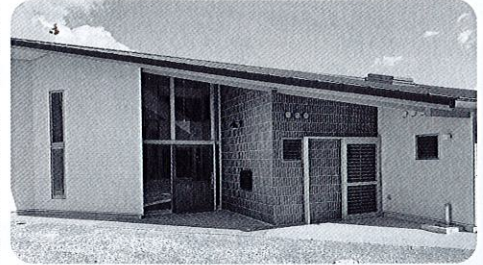
所属:友の家

サポートセンター友の家で働かせていただいています、藤本です。少しでも利用者さんのお役に立てる様、又、必要とされる支援者になれる様に日々精進して行きたいと思っています。宜しくお願いします。



サポートセンターかなで

今年度四月一日より、新しい共同生活援助事業所、サポートセンターかなでを開設しました。水呑町白萩の旧さわらび跡地に、新しいグループホーム「ホームかなで」を建設し、運営を開始しました。定員は男子七名、短期入所二名、計九名の生活空間です。



かねてより児童施設における年齢超過児童の入所経過措置期限の終了が課題となっていました。十八歳を超えて児童施設を利用されている方の新たな生活の場のひとつとして、この度ホームかなでに三名の方が移動されることになりました。また、地域で生活をされている方も四名入居されます。

新しい場所での生活は戸惑いや不安も沢山あると思いますが、スタッフ一同力を尽くして利用される方の生活支援を行ってまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、私事ですが、サポートセンターひびきの家と兼務で管理者を務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

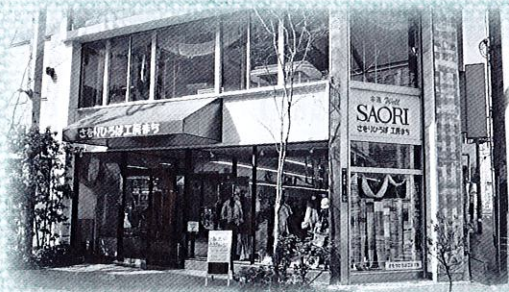
サポートセンターかなで

管理者 片岡 志保美

さをりひろば工房まち

さをりひろば工房まちは、福山の中心部笠岡町に事業所があります。障がいのある皆さんが、大好きなさをり織りを中心に、日々の創作活動や生産活動を行いながら、地域のイベントなどに参加し、人々との交流を通して生活意欲の向上を図り、より豊かな社会生活をおくれるよう活動しています。店頭には、心を込めて織り上げた素敵な『さをり』作品がたくさん用意してあります。皆さん、是非さをりひろば工房まちにお越し下さい。

さくら 猪原 義久



ペンケース

バッグ

ポーチ

『さをり』とは、色鮮やかな糸を好き好きに織って、織る人の個性と感性が世界でたった一つの織り柄を描き、横糸と縦糸が人の絆の様にしっかりと重なって誕生します。

ありがとうございました (2020.1.1~2020.3.31)

*お名前・グループ名のみ紹介し、お礼にかえさせていただきます。(敬称略・順不同)
*保護者・職員については記載していませんので、ご了承ください。

ご寄贈・ボランティア訪問

- ボランティア ・備後田尻荒神神楽
・ベニィリィハウスライブ (5名)
- ご寄贈 ・匿名1名 ・福山六方学園家族会

実習生・交流

- 保育士 2月12日~10日間 中国学園大学 4名

今後の予定

※創樹祭など、各種行事はコロナウイルスの影響により、中止となっております。

ぶちええわ! 宿泊強歩



二〇二〇年二月一日〜十六日に福山六方学園で宿泊強歩がありました。昨年は、風邪をひいて参加ができなかったけど、今年は参加できました。本番まで楽しみで、気持ちが高ぶってドキドキしていました。いざ本番になり、しっかりと体操をして挑みました。景色を楽しみながらやりきることができました。疲れやしんどきは全くなかったけど、ホテルのご飯や、休憩場のチョコを楽しみにしながらやり切りました。もう来年は、宿泊強歩に出れません、これからもしっかり人生を全うしていきたいです。

近藤 翔太

二月十五、十六日で宿泊強歩がありました。一日目は元気に笑顔もたえることなく歩きまわりました。各休憩ポイントでは多くの利用者の方が応援に来てくださり、沢山の元気をもらいました。二日目は雨の中でのスタートでした。歩いていくうちに雨が強くなり、神村コミュニティセンターの手前で断念しました。

しかし、雨の中一生懸命歩いていました。歩いている利用者は最後まで完歩したかった、という思いがあったようですが、怪我もなく無事終わって良かったと思います。



魅力ある福祉・介護の職場宣言ひろしま【プラチナ認証】

皆さんはこのマークを御存じですか？働きやすい職場づくり行う優良法人の認証マーク。創樹会はこのたび、スタンダードからランクアップしてプラチナ認証を頂きました。

事務局では、国の働き方改革の旗のもと「そんなこと言われても・・・」と悩みながら対応に苦慮してきましたが、これまでのやり方を変えていくことなのだと言葉を転換。すると、いろいろなことが違って見えてくることに気が付きました。

そのひとつに最近よく耳にする多様性。本会は、幅広い年齢層の職員が働き、まさにこれを導入しているのです。スマホやアプリを軽々と使うこと、限られた時間で複数の仕事を同時進行すること、最後の1人が終わるまで見守ってくれること。利用者さんの暮らしを支えることは、私たちの暮らしのヒントにもなっています。

このプラチナ認証は仕事をお考えの皆さんには「福祉の職場」を、法人内で働く職員さんには「うちの芝生もけっこう青い」ということを知って貰う良い機会となりました。引続きプラチナを継続できるよう頑張ります！！

本部事務局 山本由紀子



社会福祉法人創樹会 (<http://soujukai-fukuroku.or.jp> ☒ fukuyamaroppou@soujukai-fukuroku.or.jp)

事業所一覧

福山六方学園(障害児入所施設)(障害児短期入所事業)(日中一時支援事業)
 あゆみ苑成人寮(障害者支援施設)(生活介護事業)(短期入所事業)(日中一時支援事業)
 サポートセンターひびきの家(共同生活援助事業)
 サポートセンター友の家(共同生活援助事業)
 サポートセンターかなで(日中サービス支援型共同生活援助事業)(短期入所事業)
 さわらび(生活介護事業)(日中一時支援事業)
 ヘルパーステーションあしすと(居宅介護・行動支援事業)(移動支援事業)
 ONE-すてっぷ(児童発達支援事業)(放課後等デイサービス)(日中一時支援事業)(障がい児療育等支援事業)
 ふぁんたす(放課後等デイサービス)
 相談支援センター風ぐるま(一般相談支援事業)(特定相談支援事業)(障がい児相談支援事業)
 さくら(就労継続支援B型事業)(生活介護事業)

あ と が き

新緑の候、心地よい季節となって参りました。今年度、最初の“創樹”になります。皆様に喜んで手に取って頂ける季刊誌になる様、広報委員一同励んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。

(編集スタッフ一同)